

「わたしたちのために祈ってください」

2018年12月04日

テサロニケの信徒への手紙 二 3章1節～5節 終わりに、兄弟たち、わたしたちのために祈ってください。主の言葉が、あなたがたのところでそうであったように、速やかに宣べ伝えられ、あがめられるように、また、わたしたちが道に外れた悪人どもから逃れられるように、と祈ってください。すべての人に、信仰があるわけではないのです。しかし、主は真実な方です。必ずあなたがたを強め、悪い者から守ってくださいます。そして、わたしたちが命令することを、あなたがたは現に実行しており、また、これからもきっと実行してくれることと、主によって確信しています。どうか、主が、あなたがたに神の愛とキリストの忍耐とを深く悟らせてくださるよう。

パウロが「兄弟たち、わたしたちのためにも祈ってください（Iテサロニケ5：25）」と、祈りを求めていたように、「著者」も、「終わりに、兄弟たち、わたしたちのために祈ってください」と頼んでいる。優れた指導者は皆、自分の弱さを知っている。同信の仲間にも祈ってもらわなければ、自分一人では立てないことを知っているから、祈りを懇願するのである。祈り、祈られることによって、共に立つ。教会の交わりは、そのような祈りの共同体である。「著者」が祈ってもらいたいことは、「主の言葉が、あなたがたのところでそうであったように、速やかに宣べ伝えられ、あがめられるように、また、わたしたちが道に外れた悪人どもから逃れられるように、と祈ってください」の二つである。主の言葉が宣べ伝えられ、御名が崇められることは、宣教者が切に求める祈りである。もうひとつは、道に外れた悪人どもから逃れられるように、である。宣教者たちは未知の都市で悪人たちにも遭遇する。当時は、むき出しの暴力が横行していた。パウロは経験した諸々の労苦を列挙しているが、「川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に（IIコリント11：26）」遭ったと書いている。「著者」は、このような難と、悪人どもから守られるように祈ってほしいと求めている。

「著者」は、「すべての人に、信仰があるわけではないのです」と言い、御言葉が速やかに宣べ伝えられ、神が崇められることは容易ではないと言っている。「しかし、主は真実な方です。必ずあなたがたを強め、悪い者から守ってくださいます」と、真実な神はあなたがたを強め、悪い者から守ってくださると言っている。自分にも守りがあると確信している訳である。

そして「著者」は、「わたしたちが命令することを、あなたがたは現に実行しており、また、これからもきっと実行してくれることと、主によって確信しています」と、テサロニケ教会が、教えられた福音に従って、信仰生活を現にしており、これからも実行することを確信していると、信頼の言葉を書いている。「どうか、主が、あなたがたに神の愛とキリストの忍耐とを深く悟らせてくださるよう」。神の愛が信じられるところでは、人はどんなことがあっても、毅然と立つことができる。もうひとつ、キリストの忍耐を深く悟るようにと祈っている。キリストはまさに忍耐の人であった。第二イザヤは「主の僕」について、「彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人の過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。（イザヤ53：12b）」と歌っている。「キリストの忍耐」を思えば、どんなことにも耐えられよう。